

猛暑日が続いていますが、子ども達はじっとせず、セミ探しや泥水遊びと毎日汗だくになりながら元気に遊んでいます。今月もまだまだ暑い日が続くようですので、水分補給・栄養・休息を心掛け、この夏を元気に過ごしていきたいですね。

さて、先月は七夕保育参観にご参加いただきありがとうございました。また、役員の皆様におかれましてはご協力ありがとうございました。午前中は、たんぽぽ・もも・ばら組は保育参観、うめ・すみれ・ゆり組は異年齢のチームに分かれ特別な時間を過ごしました。夕方はうめ組からゆり組は少しずつ用意を進めてきた「おいしい」を自分の家族と沢山の方に味わっていただくことができました。ちょっぴり恥ずかしそうな「いらっしゃいませ」という姿もありましたが、お客さんからの「ありがとう」に誇らしげな笑みがこぼれていたのが印象的でしたね。

七夕祭りが終わった翌週、自分達が売り上げた金額を数え、この稼いだお金の使い道はどうするかと各クラス話し合いを進めていました。「もう一回お祭りをしたい」「どこかに遊びに行きたい」「おいしいものを食べたい」など夢あふれる意見が沢山。使い道が決まるまでもう少し話し合いが必要なようですが、何やらわくわくするような活動があることは間違いなしみたいです。

さて、最近、『カブラ』というおもちゃが大人気。今までは高さや長さを求めて繋げる遊びが多かったのですが、カブラの箱に描かれている『家』を立体的に作ろうと奮闘する子が増えてきていました。そんな先月の園内研修でのこと。スタッフがランチルームに集まり、世界の有名な建築物から一つ選んだものをチーム毎にカブラで制作しました。



研修が終わっても職員が作った作品をそのままにしていると、午睡から起き始めた子ども達は制作途中の作品が気になって仕方がない様子でした。制作途中なので、どんな風に組み立てられているのか上下左右、様々な角度からのぞき込むことができます。子ども達は、写真と作品を見比べて「この部分はここよね」



「丸い形ってこんな風に積み重ねたらいいんだ」とこと細かに研究していました。その眼差しはとて真剣で沢山の事を吸収しようとしている様子でした。翌日以降も『カブラへの熱』は冷めていません。まだまだある世界の建築物に様々な技を使って挑戦中です。

名頭園 弥生

**たんぽぽ組** ・遊びや生活の中で、保育者や友達と一緒に楽しく過ごす。  
・水に慣れ、気持ち良さや楽しさを味わう。

**もも組** ・水や泡、絵の具など様々なものに触れて感触を楽しむ。  
・食事・排泄・着脱など自分でできることをやってみようとする。

**ばら組** ・夏ならではの遊びをじっくり楽しみ解放感や満足感を味わう。  
・友達との関わりの中で相手の思いを感じたり、気づいたりする。

**うめ組** ・夏ならではの活動を友達と協力して行い、達成感を味わう。  
・夏を健康に過ごすための生活習慣が分かり、身の回りのことを進んで行おうとする。

**すみれ組** ・泥んこ遊びや水遊びなど夏ならではの遊びを思う存分楽しむ。  
・自ら水分補給や休息を行い、健康に留意し生活していく。

**ゆり組** ・夏ならではの遊びを友達と創意工夫しながら楽しむ。  
・活動と休憩のバランスを保ちながら健康的に過ごせるようにする。



8月の行事	17日(木) 避難訓練	25日(金) お弁当の日
	25日(金) ~26日(土)	29日(火) 水の連ドラ
	ゆり組キャンプ	ゆり組: 福浜海岸
	(南阿蘇国民休暇村) 31日(木) お誕生会	

### 小林先生 講義に行ってきました!

ご近所の短大で保育士を目指す1年生100名に向けて授業を行ってきました。座学だけでは分からない現場ならではのエピソードトークに、学生の皆さんも真剣に聞いて下さいました。「今、私が悩んでいる理由が分かってスッキリした!」「ますます保育士になりたいと思った!」など、前向きなレポートが寄せられ嬉しかったです。ばら組の「わたしのワンピース」にまつわる実践を紹介しました。



## お菓子の家ができるまで

7月7日：七夕ジャンボリーの活動に向けて（6月～7月）  
年少3名 年中3名 年長3名 名頭園 弥生

七夕ジャンボリー午前中の活動は異年齢グループに分かれての活動。

今回、私が担当したチームは年少・年中・年長合わせて9名のチームでした。年少にとっては初めての異年齢活動。年中・年長にとっては2回目・3回目の活動でした。

午前中の活動テーマは「ハチャメチャに遊ぼう!」。子ども達とどんな事をして過ごそうかと考えた時に、普段しているままごと遊びが壮大にできたらいいなと思い、お菓子の家づくりをすることにしました。顔合わせ初日から当日を迎えるまでの約1か月間、子ども達の様子に嬉しい変化がありましたので、ぜひここで紹介させていただこうと思います。



### 6月12日：顔合わせ

顔合わせ初日は自己紹介。椅子に座って発表し合うことになったが、恥ずかしさと心細さがあり、クラスの友達の近くに座りたがる。この日は終始、緊張気味の様子でした。

### 6月14日：2回目

- \* 「お菓子の家」の形を話し合う
- \* 9名をさらに異年齢グループ3つに分かれ、お菓子の家をデッサン

初めての異年齢交流にドキドキし、顔を見合わせながら誰かが話始めるのを待つ。

年長児：「どんなお菓子がいいかな」

年少児：「クッキーがいい」

年中児：「屋根に描こう」

年長児が会話の糸口を見つけたことがきっかけで語り合い、

少しずつ会話が弾み始めました。みんなでデッサンを見ながら

どんなお菓子を作るか話し合い、次回よりお菓子作りがスタート。



### 6月22日：3回目

- \* マーブルチョコづくり

年長児：「赤色のマーブルチョコ作る」

と張り切って塗り始める。

年少児：「先生、手につく! どうやってすると?」

保育者：「お兄ちゃん達に聞いてみてごらん」

と仲立ちをする。すると、その話を聞いて

年長児：「ここ持つと塗れるよ」

と親指の掛け方を教えてくれ、年少児だけでなく年中児も見よう見まねで塗り始める。



### 6月28日：4回目

この日の年少児の朝の会話。

年少児：「今日も〇〇ちゃん(年長児)・〇〇君(年長児)と一緒にお菓子作る?」

保育者：「作るよ」

年少児：「早く行きたいな」

お兄ちゃん達と一緒に過ごすことに期待を持ち始める。

### \* ドーナツづくり

年少児：「ドーナツどうやって作る?」

年長児のそばに座り、自ら尋ねる。

年長児：「チョコレートをばらばらってかける」

「ホワイトチョコを塗ろうかな」

年少児は年長児の会話を聞いて「わたしも!」と真似っこ。保育者が仲立ちをしなくても自分達で語り合いながら進めていく姿が見られ始める。



### 7月5日：6回目

- \* 魔法のステッキづくり

年少児が困っていると何も言わずに手伝いに行く姿。

年少児も安心して頼っています。

手伝ってくれた年長児に対して

年少児：「ありがとう」

と、自然と感謝の言葉が表れました。



### 7月4日：5回目

- \* 屋根づくり：いろんな味のチョコレート

大きな屋根をみんなで協力して塗りました。

集まってするのは5回目。

一緒に活動するのが当たり前。

教え合うのも当たり前。

年長児：「くるくるって転がして塗るよ」

年中児：「〇〇君 ここを一緒に塗ろう」

年少児：「色混ぜたらきれいだね」

年長児：「今度は青とピンク混ぜてみる?」

と、名前を呼び合って活動する姿が見られ始める。

この頃には、異年齢の垣根はすっかりなくなりました。



### 7月6日：7回目

- \* ゼリーの壁づくり

シャボン玉液に絵の具を混ぜて吹きかけました。

年長児：「丸い輪っかが薄くできた」

「いっぱい重なるとゼリーみたい」

年少児：「できない!」

年中・年長児：「そーっとしてみて」

とやさしく教えてくれました。

## 7月7日：七夕ジャンボリー当日 8回目 お菓子の家組み立て

- \* 三役のお父様・お母様と一緒に今まで作ったお菓子を飾り付け
- \* 両面テープをはがして貼り付ける

年少児：「マーブルチョコどこに貼る？」  
年長児：「屋根のどこでもいいよ」  
「テープのとはダメだって」  
と、説明時に話していたことなどを教えながら進めていく。

年中児：「ここにクッキー貼ろうよ」  
年少児：「ぼくもそこがいい」  
と、年少児は年中児・年長児が貼り付けに行く場所と一緒について回り、真似をしながら貼り進めていく。

年少児：「ねえ、見て！ここお菓子がいっぱい貼ってある」  
年長児：「本物のお菓子の家みたい」  
「どんどん貼ろう」  
と、協力して作ろうと声を掛け合う姿が見られる。

今まで作ってきたお菓子を全て貼り合わせ、いよいよ組み立て。  
ちゃんと組み立てられるか少し不安そうに見ている子ども達。一度目は、上手く屋根が乗らず、心配そうな様子。もう一度組み立て位置を確認しながら様子を見守り、2度目は上手く乗りました。  
いよいよ子ども達を楽しみにしていたお菓子の家でお菓子作り。



- \* お菓子の家でお菓子作りあそび
- ・クッキー屋さん：木くずの紙粘土
- ・ゼリー屋さん：寒天ゼリー
- ・ケーキ屋さん：スポンジケーキ

お菓子作りを始めると、異年齢に関わらず一緒に遊び始め、型抜きを教え合ったりゼリーをアレンジし合ったりしながらそれぞれのお店屋さんがスタート。  
「〇〇ちゃん一緒に遊ぼう」「こっち来て！！」と子ども達同士で熱中して遊び込んでいました。



### ～活動を終え～

全部で8回の活動を終え、日々過ごす中で子ども達の関わりの変化が現れました。初めの頃はなかなか話せずにいる様子でしたが、年長児は下の子を思いやり声を掛けたり会話のきっかけを見出し、年中児・年少児は上の子を模倣しながら、そして安心して頼る。一緒にいるのが当たり前で困っていたらお互いに助け合う。そんな姿が自然と生まれたことがとても嬉しい出来事でした。今でも子ども達は「今日は〇〇ちゃんと一緒に遊べるかな」と活動してきた子の名前を呼び、保育園の中で会えば挨拶を交わしています。また、まだ続きを一緒に作るんだと意気込んでいます。そんな子どもの成長する姿を近くで見れて嬉しかったです。

お父さん達に屋根を立ててもらいました



「ドアも開くんだよ」  
と近くの人に見せたい様子

